

報道関係各位

2025年1月21日
株式会社サンシャインシティ

水族館&いきものを深掘り！発見がいっぱい！

いつでも、どこかで“何かが起きている”サンシャイン水族館がお届けする

いきものディスカバリー通信vol.24

「野生では97%も減少!?水族館の人気者 ケープペンギンの“今”」

絶滅の危機に瀕しているケープペンギンを守るために

サンシャイン水族館(東京・池袋)では、1978年の開業当時(旧サンシャイン国際水族館)から現在まで、主に南アフリカに生息している「ケープペンギン」を飼育しています。『IUCN絶滅危惧種レッドリスト™』(以下：レッドリスト)を作成する国際自然保護連合(IUCN)は、2024年10月28日(月)に「ケープペンギン」を絶滅危惧カテゴリーの中でも「深刻な危機」(CR)にあると判定し、野生での絶滅の可能性が極めて高いことを強調しました。このまま数が減り続ければ4,000日以内にケープペンギンが自然絶滅する可能性があるとも考えられています。

ケープペンギンは国内の水族館でも数多く飼育されており、一見「どこにでもいるペンギン」だと思われがちですが、その生態や生息域の問題についてはあまり知られていません。今回のいきものディスカバリー通信では、サンシャイン水族館の象徴的な生き物ともいえるケープペンギンについて、“今”直面している課題や今後ケープペンギンをはじめとする海の生態系を守っていくために私たちができることをお伝えします。

人間の生活がケープペンギンの減少に大きく関わっていた…

- ✓ 過去に資源としてケープペンギンが乱獲される
- ✓ 巣作りに必要なグアノの大量採掘で住処がなくなる
- ✓ 重油流出・海洋投棄ごみ・マイクロプラスチックによる海洋汚染
- ✓ 大規模漁業での乱獲や気候変動によってエサとなるイワシが減少



ケープペンギンがレッドリストに初めて絶滅危惧種として判定されたのは2010年。そこからわずか14年後の2024年にはそのレベルが上がり、絶滅危惧カテゴリーの中で、最も絶滅リスクが高く、野生絶滅一歩手前の「深刻な危機」(CR)と判定されることに。大きく数を減らし続けている主な原因は、ケープペンギンを取り囲む環境の変化にあります。その変化の原因は、私たち人間の歴史と密接に関わっています。

<資源としてのケープペンギン>

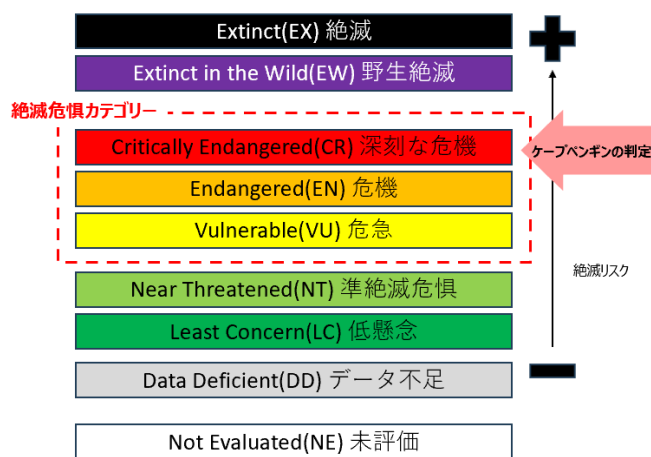
ケープペンギンは、遡ること1497年にバスコ・ダ・ガマの航海船によって発見され、西洋に知られるようになりました。19世紀になると、脂肪が多く簡単に捕らえることのできるペンギンは食料や「ペンギンオイル」と呼ばれる食用油・燃料として利用されてきました。



主にペンギンの糞が堆積してグアノ層になる

<グアノの大量採掘>

本来、ケープペンギンは「グアノ層」と呼ばれる海鳥の糞や死骸が何万年にも渡って積み重なった地層に巣を作ります。20世紀初頭には、このグアノが優秀な肥料として知られ、莫大な利益をもたらす「白いゴールドラッシュ」と呼ばれるほどでした。人間の手によってグアノが大量に採掘され、ペンギンたちは営巣地を失ったと考えられています。また、同時期には食用としてケープペンギンの卵が1年に100万個近くも乱獲され、卵の採取は規制される1967年まで続きました。住処をなくして地表に巣をつくる個体もいましたが、直射日光によるダメージ等で卵が傷ついたり、陸上の捕食者にさらされることも少なくありませんでした。



参考：IUCNレッドリストカテゴリーと基準

<重油流出などの海洋汚染>

近年では様々な規制によりケープペンギンの乱獲や資源としての利用はほとんどなくなりました。しかし、生息地周辺で行われる人間の経済活動が生息地に大きく影響を与えていることに変わりはありません。**大型タンカーが行き交うケープタウン沖では重油流出事故が絶えず、その一帯に生息するケープペンギンの羽毛は油まみれになり、防水機能を失って、多くのケープペンギンが犠牲になりました。**さらに追い打ちをかけるように、**漁業で廃棄された網や釣り針、プラスチックごみなどもケープペンギンを傷つけてしまう原因となっています。**



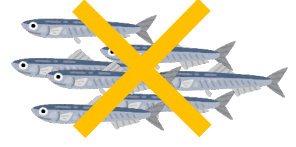
大型タンカーの重油流出事故



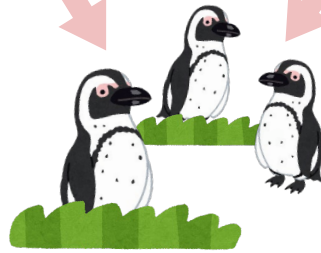
プラスチックごみ



地球温暖化や海水温上昇

生息地から獲りに行ける
イワシの減少

ケープペンギンの生息する環境に大きく影響する



<エサとなるイワシの減少>

エサを確保することも一苦労。ケープペンギンの主食となるイワシなどの小魚が、人間による大規模商業漁業によって乱獲され、さらに気候変動と海水温上昇等が続いたことでイワシの群れの分布が大きく移動しました。その結果、**ケープペンギンの生息地から獲りに行けるイワシの量が大幅に減少し、深刻なエサ不足につながっています。**

このような歴史と現状により、全世界に生息するケープペンギンは1920年代と比べ97%も減少してしまいました。この状況が続けば、**4,000日以内に絶滅する可能性があると言われて**います。現地ではケープペンギンという種を守るため、南アフリカ沿岸鳥類保護財団「SANCCOB」や「バードライフ・サウスアフリカ」などの保護団体が活動を行っています。

サンシャイン水族館もその一助となるため、ケープペンギンの生態や課題について知ってもらうための活動を続けています。

毎年4月25日は世界ペンギンの日！2024年は約39万円をSANCCOB(サンコブ)へ寄付

サンシャイン水族館は2021年より動物や自然環境に関する保全教育プログラムを全国各地で行っている団体「ShoeZ(シューズ)」と共に世界ペンギンの日に合わせてエコグッズの販売やペンギンについて学ぶイベントを実施しています。毎年多くの方々にご参加・ご協力いただき、エコグッズやツアーの売上をSANCCOBに寄付しています。**4年間で146万円以上の支援を行い、寄付金は保護されたペンギンの飼育や海鳥のエサ代・薬代として使用されています。**

(2022年には約30万円、2023年には約57万円を寄付)

南アフリカ沿岸鳥類保護財団「SANCCOB」

南アフリカに拠点を置き、危機的な状況にあるケープペンギンをはじめとした海鳥を保護し、絶滅を防ぐために活動をしている団体です。公式ウェブサイト <https://sanccob.co.za/>

ShoeZ (シューズ)

2014年に有志で結成された団体で、現在約10名のメンバーで様々なプログラムの企画・運営を行っています。誰もが気軽に訪れる動物園や水族館で、動物たちをよく観て、体の作りや行動の意味を理解し、その先にある自然環境に思いをのせていく。そして、動物たちと自然環境の間にある大切なつながりを知り、そのつながりを守るために、私たちに出来る行動を見つけていく。各地の動物園や水族館にご協力を頂きながら、大切なメッセージをたくさんの人に届け続けています。



ペンギンについて学ぶイベントの様子

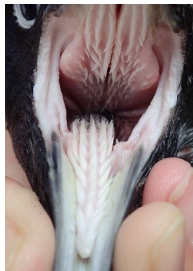
もっと知ってほしい！

サンシャイン水族館のケープペンギンたち

■そもそもケープペンギンってどんな生き物？

ケープペンギンは南アフリカやナミビア周辺等、唯一アフリカ大陸に生息するペンギンです。ペンギンは氷の上で生活しているイメージを持たれがちですが、ケープペンギンは比較的温暖な地域に生息しています。体長約60cm、体重3～4kgほどで、ペンギンの仲間の中では中型。主食はイワシなどの小魚で、水中でエサを獲り、岩場の隙間や藪の根元に作った巣の中で卵を温めます。鳴き声がロバのように聞こえることから、**ジャツカス**(英語でロバを示す)ペンギンとも呼ばれています。

そんなケープペンギンの体には隠れた秘密が盛りだくさん。サンシャイン水族館のペンギンたちを観察してみましょう。



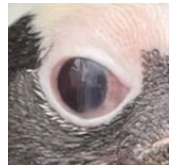
■口の中はギザギザ

ペンギンには歯がなく、上下にギザギザの突起があり、一度捕まえた魚が逃げないようにする「返し」の役割を持っています。魚のうろこやヒレが引っかからないよう、魚を頭から丸のみして食べます。

■ペンギンはまばたきをしない!?

目は水陸両用！

水中では瞼を開けたままでも「瞬膜」という第3のまぶたと呼ばれる半透明の膜で目を保護できます。まぶたは瞬きをすると縦に動くイメージですが、ペンギンの瞬膜は横にスライドして閉じます。泳ぐときはゴーグル代わりに！



■年に一度、羽が生え変わる換羽(かんう)

新しい羽が一気に生えてきて、古い羽が押し出されるように抜けていく「換羽(かんう)」はペンギンにとっての一大イベントです。換羽中は水に潜ることができないため、野生下のペンギンは約2週間絶食となります。



■実は足が長い!

よちよち歩き意外な秘密

かわいらしい歩き方が人気のペンギン。実は、水中で泳ぐ際に水の抵抗を受けにくいよう、長い足が体内に収納されています。

レントゲン写真

■耳はどこに…?

ペンギンを観察してみても、一見耳がどこにあるかわかりません。ほかの鳥類同様、ペンギンには耳たぶがなく、普段は羽毛でしっかり覆われています。水中では水圧で羽毛が押されて完全防水に。換羽の時期にちらっと耳が見られることがあるかも…?



■泳ぎに特化した翼 フリッパー

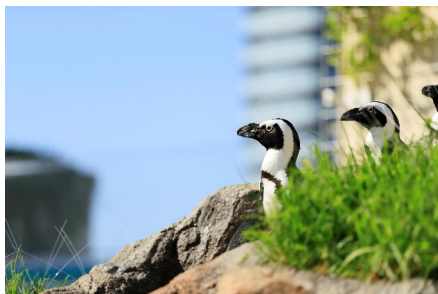
ペンギンの翼は「フリッパー」とよばれています。個々の骨が平たくなり、関節の柔軟性も少なくなったことで、効率よく水をかけるオールのような構造になっています。ケープペンギンの泳ぐ速さは時速約15km。自転車と同じスピードです。

ケープペンギンについてより深く知りたい方はこちら (<https://sunshinecity.jp/aquarium/animals/penguin.html>)



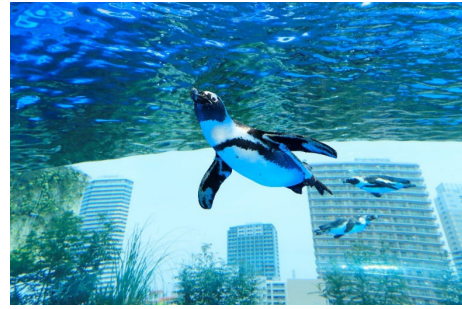
■展示水槽：屋外エリア マリンガーデン「草原のペンギン」水槽

野生のケープペンギンは、海の近くの草原に巣穴を掘って生活していることもあります。「草原のペンギン」水槽は、草原で暮らす本来のケープペンギンの日常イメージが観察できるように作り上げた世界初の水槽です。岩場部分には巣穴もあり、絆が強いと言われるケープペンギンのペアたちが仲良く暮らす様子や、時期によっては両親がヒナを育てる風景を見ることができるかもしれません。2024年5月に誕生したケープペンギンのヒナも、ふ化から現在までこの水槽で暮らしています。(2025年1月現在)

2024年5月生まれ
ほてと

■ 展示水槽：屋外エリア マリンガーデン「天空のペンギン」水槽

「天空のペンギン」水槽は、正面から頭上にかけて大きくオーバーハングした水槽です。目の前には都会のビル群の上空を飛び交うように泳ぐケープペンギンの姿が、そして見上げれば頭上を羽ばたくケープペンギンの姿が見られます。普段はあまり知られていない、波や潮流をものともせず海で毎日魚を獲るケープペンギンの俊敏な泳ぎが見どころです。



ケープペンギンと海の環境を守るために私たちにできること

■ まずは「知る」こと

何よりも大切なことは「ケープペンギンの現状を知ること」です。水族館には、お客様が楽しみながら「命の大切さ」や「生きることの美しさ」を感じ取ってもらう役割とともに、種の保存や生態調査・研究、そして見に来た方が自然や生き物について考えるきっかけとなる「教育」の役割もあります。様々な水族館や動物園に足を運んでみて、気になる生き物がいたら、どんな生き物なのか調べてみましょう。サンシャイン水族館では毎年4月25日の「世界ペンギンの日」に合わせたイベントも実施しているのでぜひ足を運んでみてください。



■ ごみをポイ捨てしない！ごみを見つけたら拾う！

地上で捨てられたごみが風で飛んで行ったり、雨で川に流されてしまったりすると、最終的に海へ辿り着きます。ケープペンギンをはじめとする海の生き物のお腹の中からプラスチックごみが発見されることも少なくありません。私たち一人ひとりがポイ捨てをしない意識を持つことで少しずつ環境を変えることができます。落ちているごみを見つけた時もサッと拾ってごみ箱に捨てるだけで生き物の命を守ることに繋がります。



サンシャインシティグループでは、海や陸の生き物を少しでも守りたいという思いのもと、「ごみゼロ活動」と称して定期的にゴミ拾いを実施しています。

■ ケープペンギンの保護活動への寄付

世界にはケープペンギンの生息地で保護活動を行っている団体や、生き物の保全について周知活動をする団体が数多く存在します。各活動を続けていくための資金は、ほとんどが寄付や募金によって賄われています。日本に住んでいる私たちが直接そのような活動に参加することは難しいですが、寄付という形でケープペンギンの保護に携わることができます。サンシャイン水族館も、生き物の保全教育プログラムを実施する「ShoeZ(シューズ)」と共にイベントを実施し、南アフリカ沿岸鳥類保護財団「SANCCOB」への寄付活動などを行っています。

いきものディスカバリー通信のアーカイブはこちらから↓

<https://sunshinecity.jp/aquarium/animals/discovery/>



■ サンシャイン水族館（通常営業）概要

所在地：東京都豊島区東池袋3-1 サンシャインシティ ワールドインポートマートビル・屋上

営業時間：10:00～18:00 ※最終入場は終了1時間前 ※変更の場合あり

入場料：大人(高校生以上)2,600円～、子ども(小・中学生)1,300円～、幼児(4才以上)800円～ ※変更の場合あり

問合せ先：サンシャイン水族館 03-3989-3466 <https://sunshinecity.jp/aquarium/>

※土日祝日および特定日は、入場制限を行っておりますので、事前予約（日時指定・日付指定）が必要です。詳しくは、水族館 ウェブサイトをご確認ください。

報道関係者様からの
お問い合わせ先

株式会社サンシャインシティ コミュニケーション部 広報担当 成保・大木・佐藤・藤村・大浦
TEL.03-3989-3329 (平日9:30～18:00) FAX.03-3989-3451 pr@sunshinecity.co.jp

共同ピーアール株式会社 PRアカウント本部 5局2部 内山・田口・高橋
TEL. 03-6260-4861 sunshinecity-pr@kyodo-pr.co.jp